



AMANO EYE CLINIC

あまの眼科通信 Vol. 13

～2013年5月発行～

春日井市八田町6丁目21-23

電話 0568-56-0002

あまの眼科 検索

- p.1 ご挨拶とお知らせ
- p.2 知っておきたい目の基礎知識
- p.3 よくある疑問 Q&A
- p.4 緑内障と白内障を知ろう!
- p.5 目と食べ物のお話
- p.6 患者さんの声



こんにちは。あまの眼科クリニック院長の天野喜仁です。
いつもありがとうございます。

この5月に、あまの眼科クリニックはお陰さまで**開院2周年**を迎えます。

ご来院いただく患者さんお1人お1人に支えていただき、無事にクリニックを運営することができております。
本当にありがとうございます!

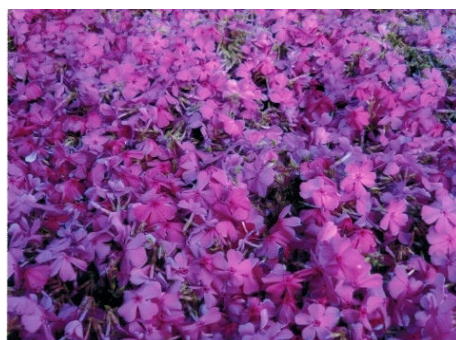
3年目に入るあまの眼科クリニックですが、人間の成長で言えば、自分の力で歩くことを覚え、少しずつ言葉で自己表現ができるようになり始める頃でしょうか。

いろいろなことを吸収して、身体能力や知的好奇心の成長が非常に早い時期でもあると思います。

私たちもご来院いただく患者さんからいろいろなこと

を**教わり**ながら、しっかり**成長**していきたいと思えます。

開院準備も含めて3回目の春を迎えた今年、実は少し**嬉しい出来事**がありました。駐車場の花壇で、**芝桜**が見事な花を咲かせてくれたのです。



水をやり、肥料をやり、なかなか苦勞をしてきましたが、やっと花を咲かせてくれて、喜びもひとしおでした。

植物の成長に私たち自身のことも重ね合わせながら、開院時に掲げた『**誠実に、そして謙虚に**』という指針を再確認しつつ、一歩一歩成長していきたいと思えます。

学校健診・健康診断の結果は届きましたか？



年度変わりの季節、学校健診はもちろん、お勤めの会社さんの健康診断などを受診された方も多いことでしょう。

健診結果で**何らかの指摘を受けた**場合は、**詳しい状態の確認**をおススメします。遠慮なくご相談ください。

休診のお知らせ

6月7日(金)・8日(土) は休診とさせていただきます。

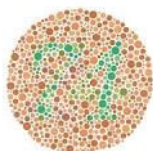
ご不便をおかけしますが、よろしくお願いたします。



学校健診の季節ですが、その内容も今と昔とでは少しずつ変化しており、親御さんの世代では当たり前だった検査が今では行われていないものも存在します。

そのひとつが『色覚検査』です。

右のような表を使って行う検査で、2003年まで小学4年生を対象に実施されていました。



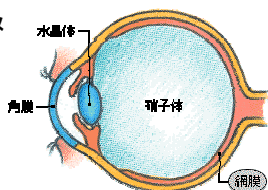
男性の4.5%、女性の0.2%の方、つまり1クラスに1人は色覚に異常がある人がいると言われていますが、多くの場合は日常生活にほとんど支障がありません。

にも関わらず、進学や就職で制限を受けてしまうケースが増加してしまい、不当な差別の原因ともなってしまったことから、学校健診での色覚検査は廃止されました。

● 色は人によって違って見えるもの

「物を見る」という機能は、視力（細かい物を見分ける力）、視野（同時に見渡せる範囲）、色覚（色を識別する感覚）の3つに支えられています。

この3つの機能は、網膜（カメラのフィルムに該当する組織）にある光を感じとる「視細胞」の働きに委ねられています。



視細胞がうまく機能しないと、視力や視野に異常が生じますが、視細胞の機能次第で色を識別しにくくなる状態があり、それを色覚の異常と呼んでいます。

色覚の異常には、先天性と後天性があります。

先天性の場合は原因が遺伝的なものなので、現時点では有効な治療法がない一方、色覚異常の程度は変化せず、

また色覚以外の視機能は問題ないことがほとんどです。

後天性の場合は、何らかの病気の症状のひとつとして異常が現れますので、視力や視野にも影響が出たり、病気の状態によって色の見え方が変わることがあります。

● 日常生活ではほとんど問題ありません

色覚に以上があるとものが白黒に見えると思っている方も多いようですが、それは以前使われていた「色盲」という表現から生まれた誤解です。

色覚の異常とは、区別のつきにくい色があるだけで、目に写る風景はカラーの映像です。このため日本眼科学会では「色盲」という用語をすべて廃止しています。

繰り返しになりますが、色覚に異常があっても日常生活においてはほとんど問題ありません。

今の医学では先天性の色覚異常を治すことはできませんが、色の見え方が少し違うだけで、それが悪化する心配はありません。

間違えやすい色、区別がつきにくい色は、人それぞれ異なります。

色覚異常がわかったなら、早めに検査を受けて、自分の色覚の“くせ”を理解しておくことが大切です。

色覚は、その人の生き方を左右する多くの条件の中のひとつにすぎず、色覚に異常があるからといって人生が決定づけられることはありません。

色覚の異常を自分という人間を形づくる一要素として受け入れ、マイナスに捉えることを排除することが、より充実した生活を送るコツと言えるでしょう。

よくあるご質問にお答えします！

ちょっと気になる目の疑問



日頃の診療で、皆さんからよくご質問いただくことについて、簡単にお話したいと思います。

同じような疑問をお持ちの方のお役に立てればと思いますし、周りの方でこんな疑問をお持ちの方がいらっしゃいましたら、参考までに教えてあげてくださいね。

それでは、早速お答えしていきましょう！

Q. コンタクトレンズをしたまま眼圧を測ったら大丈夫ですか？



眼圧測定の原理は、どんな測定方法でも、簡単にいえば**外から圧をかけて角膜をへこませて測る**という仕組みのものです。

ですから、原則的には**コンタクトレンズをはずして検査を受ける**必要があります。

しかし、薄くてあまり度の強くない近視用のソフトコンタクトレンズなら、装用したまま空気の出る機械で測ってもそれほど影響がないとは言われています。

都合でどうしても外せない方や、角膜の病気で治療用ソフトコンタクトレンズを乗せている方は、レンズをしたまま測ることができるケースもあります。

一方、**ハードコンタクトレンズは硬いので装用したままでの眼圧測定は不可能**です。必ず外して検査をします。

眼圧測定に限らず、眼科の診察や検査ではコンタクトレンズを外す必要があるケースがほとんどですから、**レンズケースを持参して受診されるようお願い**します。

Q. 先生から「3歳になったら視力検査をしようね」と言われましたが、必要ありますか？



結論から言いますと、**検査は必要**です。検査を行うことによって、**お子さんの『ものを見る力』の発達**の程度を知ることができます。

『ものを見る力』が子どもの時に発達していなければ、**メガネのレンズを合わせても1.0以上の視力が出ない**「弱視」という状態になります。

誤解なく理解しておいていただきたいのは、**弱視＝高度の視力障害を意味するものではない**ということです。

「弱視」は、**子どもの時に適切な治療を行えば良くなる**ことがほとんどです。一方で、**大人になってから治療をしても視力は出ないまま**です。

眼科医は、弱視の早期発見・適切な治療を行うために、3歳になったら視力検査をすることをすすめています。

一方で、3歳ぐらいの子どもでも「きちんと検査ができるの？」という疑問もあるかも知れません。

個人差はありますが、**3歳頃から視力検査を行うことは可能**です。

ただ、お1人お1人ごとに性格も違いますし、その日の体調やその時の気分などによって、1回では難しいことがあるのも事実です。

何回か視力測定を経験することによって上手にできるようになりますので、**1回でうまくできなくても心配な**さらずに検査を受けてくださいね。

加齢と目の病気について知ろう！

第2回 「白内障」のお話 ②

加齢と目の病気のお話、前回は『**白内障ってどんな病気なの？**』という疑問についてお話しました。今回は、白内障の『**治療法**』についてお話したいと思います。

白内障の治療には、点眼薬・内服薬の投薬治療、手術などのアプローチがあります。

● 投薬治療



早期の白内障の場合には、**点眼薬**や**経過観察**で様子を見ることがあります。また、少し症状が進行している場合には**内服薬**で様子を見ることもあります。

ただし、白内障の根本原因である“**水晶体の濁り**”は**投薬治療で取り除けません**ので、投薬治療は“**症状の進行を遅らせる**”効果を期待した治療になります。

投薬治療の効果については、症状や個人差による違いがあります。

初期の白内障の場合は、点眼を続けることで白内障の進行が遅れる方や、点眼を始めたことによって急に調子がよくなるという患者さんも実際にいらっしゃいます。

しかしながら、薬自体は水晶体の濁りを取り除くものではないため、**進行してしまった白内障の場合には、ほとんど効果が期待できない**のも事実です。

したがって、**症状が軽度で、あまり視力への影響が無い場合**には、点眼薬や内服薬による進行予防が治療の選択肢のひとつとなります。

また、投薬は進行予防に働くものではありませんが、**完全に進行を防ぐことはできません**。これは、老化現象を防ぐことができないことと同じ理屈です。

投薬治療は、**進行を遅らせるための治療**ということになります。

しかしながら、若々しさを保つために女性がお肌のお手入れをするのと同じで、「何もしない」よりは「努力することによって進行を遅らせる」効果は期待できます。

点眼を勧められた場合には、**点眼を継続して経過を観察する**ようにしてください。

● 手術による治療



白内障が進行してしまった場合には、**手術以外には視力を回復する手段はありません**。薬では、水晶体の濁りを完全に取り除くことができないからです。

「なるべく手術を受けずに治したい」という気持ちは、どんな病気になったときにも同じことだと思います。

他の病気では手術による治療が避けられない場合があるのと比べると、白内障は、生活に支障は出るものの、絶対に手術をしなければならないものでもありません。

ただし、生活に支障が出る度合いが大きくなれば、**手術以外の対応策が今のところない**のも実情です。

運転免許証の更新に必要な視力が得られない、仕事に著しい支障が出る場合など、**手術による治療の必要性やタイミング**には個人差があるかと思えます。

あるいは、**糖尿病などの持病をお持ちの方**の場合には、手術の必要性が増す場合もあります。

日常生活に支障があれば手術を検討したほうが良いですし、ご自身の手術の必要性や視力回復の可能性については、**医師とよく相談したほうが良い**でしょう。

